

平成 20 年 12 月 22 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー
ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2008 年 11 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2008 年 11 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		11 月度	対前年 同月増減 注7)	(参考) 累計 注8)	(参考) 対前年 累計増減 注9)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	75.5%	-10.2%	76.9%	-6.2%
	ADR	(円) 17,300	2,558	16,253	1,177
	RevPAR	(円) 13,070	434	12,500	-35
	売上高	(百万円) 704	37	1,745	-80
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	91.6%	7.5%	91.9%	6.3%
	ADR	(円) 20,526	1207	19,512	552
	RevPAR	(円) 18,805	2,564	17,932	1,700
	売上高	(百万円) 683	71	1,889	93
なんばオリエンタルホテル	稼働率	87.0%	-3.7%	85.4%	-7.0%
	ADR	(円) 11,482	494	10,924	504
	RevPAR	(円) 9,990	21	9,327	-298
	売上高	(百万円) 165	-3	483	-17
ホテル日航アリビラ	稼働率	72.9%	-2.9%	86.2%	-0.5%
	ADR	(円) 19,684	901	22,847	1,064
	RevPAR	(円) 14,355	121	19,701	798
	売上高	(百万円) 370	-6	1,370	12
オリエンタルホテル広島 注 6)	稼働率	79.1%	1.1%	79.3%	4.8%
	ADR	(円) 9,448	500	9,112	351
	RevPAR	(円) 7,474	491	7,229	701
	売上高	(百万円) 242	37	614	63
上記 5 ホテル合計	売上高	(百万円) 2,164	136	6,101	72

11 月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、前年同月に比べて土日祝日が3日多く、比較的高単価であるレジャーゲスト向け商品が好調に推移したため、ADR、売上共に前年を上回りました。料飲部門では、婚礼宴会が土日祝日の日数増により件数受注が好調に推移、レストラン部門の売上は前年を下回ったものの、料飲部門全体の売上は前年を上回りました。その結果、ホテルの総売上は、前年同月を約37百万円上回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門ではTDR25周年イベントによる集客効果は今月も持続し、ADR、稼働率共に前年同月比で上昇し、部門売上が前年を上回りました。レストラン部門においても、全レストランで好調裏に推移し前年同月の売上を上回りました。宴会部門では一般宴会は弱含みでしたが、土日の日数が多かったことが奏効し婚礼宴会は前年を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約71百万円上回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門は、個人客を中心に国内需要の取込みの成功により前年同月比で稼働率は下げたものの、ADRは上昇し、結果的に部門売上は前年を上回りました。一方、レストラン部門は夕食を中心に弱含み、対前年同月比で売上が下回りました。結果的にホテル総売上は前年同月で約3百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、入域者数が若干弱含む中で、稼働率が前年同月比で低下したものの、2度の3連休では確実に取込が出来たこと等からADRは前年同月を上回り、結果的に売上も前年を上回りました。料飲部門は、稼働率の低下に伴う宿泊人数の減少によりレストラン部門、宴会部門とも対前年を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約6百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、観光需要を中心にマーケットが堅調に推移する中、積極的なエージェントセールスが奏功し、稼働率、ADRとも前年同月比を上回ったため、売上も前年を上回りました。料飲部門においては、レストラン部門は前年を下回りましたが、宴会部門においては、9月初旬に竣工した3・4F宴会場のリニューアル効果が高く、前年を上回りました。その結果、ホテルの総売上は前年同月を約37百万円上回りました。

注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注 2) 各月の数字については監査等の手続を経していないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合があります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

注 6) オリエンタルホテル広島については平成19年10月1日取得のため、対前年同月及び累計増減の算出基礎となる平成19年9月の数値は、未監査です。

注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。

注 8) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。

注 9) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>